

科目コード	21106	区分	専門基礎科目	実務経験のある教員等による授業科目					
授業科目名	保育原理	担当者名	虫明 淑子	○					
		実務経験との関連	幼稚園教諭、幼稚園園長としての実務経験がある教員が実務経験を踏まえたテーマを扱い指導する。						
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業では、幼稚園・保育所・幼保連携型認定こども園すべてに求められる、幼児教育・保育の基盤となる理念や概念を学ぶとともに、子ども主体の保育とは何かという問いを、歴史的背景を踏まえて考え、今後のよりよい教育・保育の実践のあり方や課題を自分なりに理解することを目指す。具体的には、子ども理解、保育の内容・方法、保育の計画と評価、子育て支援、健康・安全、多様な子どもの理解と保育、法律・制度などの観点から考察する。さらに、事例検討やグループディスカッションを通して、保育者の専門性について理解を深める。

<授業の到達目標>

1. 幼児教育・保育の基本原則を理解し、子ども主体の保育の考え方を歴史的背景を踏まえて考察できる。2. 子ども理解、保育の内容・方法、保育計画と評価、子育て支援、健康・安全、多様な子どもの理解と保育、法律・制度などの観点から、教育・保育の課題や実践のあり方について自分なりに整理できる。3. 事例検討やグループディスカッションを通して、保育者としての専門性についての理解を深め、これからの保育のあり方や課題について自分なりに考えることができる。

<授業の方法>

・講義：教科書の内容を整理・抽出し、それに沿って行う。・事例検討：実際の事例をもとに意見交換を行い、学んだことを具体的に考察する。・リアクションペーパー・課題：授業で学んだ内容を自分の言葉で記述し、考えを整理する。・授業内試験：授業で学んだ内容を整理し、試験後のフィードバックを通して理解を定着させる。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・授業参加態度（40%）：出席・姿勢・グループディスカッションでの態度や取り組み方を評価・リアクションペーパーと課題（30%）：提出状況や、授業の要点・学んだこと・感想を自分の言葉で表せているかを評価・試験（30%）：授業内容の理解度と考えのまとめを評価 ※学生からの質問には随時対応する。 ※リアクションペーパーへのフィードバックは次回以降の授業内容に反映する。 ※授業計画は学生の理解度に応じて変更することがある。 ※試験は授業内に実施し、実施後のフィードバックにより理解を補充する。

<教科書>

汐見稔幸・無藤隆・大豆生田啓友【編著】（2019年4月30日）『アクティベート保育学① 保育原理』ミネルヴァ書房
文部科学省（2018年3月）『幼稚園教育要領解説』フレーベル館

<参考書>

厚生労働省（2018年3月）『保育所保育指針解説』フレーベル館
内閣府・文部科学省・厚生労働省（2018年3月）『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	・授業計画、到達目標、成績評価方法等について、シラバスを通して理解する。・授業計画について再確認する。
2	保育とは何か(1)	・「保育」という言葉が生まれた歴史的背景を理解する。
3	保育とは何か(2)	・「子ども主体の保育・教育」への移行の背景や意義を理解する。
4	保育と子ども理解(1)	・子ども理解とは何かを考え、子どもの行為の「意味」を探ることの重要性について理解する。
5	保育と子ども理解(2)	・子ども理解とは何か、その本質や意味について多角的に考察する。・「省察」の意義を理解し、実践における重要性を捉える。
6	保育の内容	・保育内容の意味と変遷（5領域まで）を理解し、意義と役割を捉える。・3要領・指針に示された「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を理解し、幼児教育・保育が小学校以降の学びの土台となることを考える。
7	保育の方法とは何か	・幼児教育・保育における望ましい方法を踏まえ、保育の「質」とは何かについて多角的に考察する。
8	保育の計画と評価	・保育における計画と評価の意義を理解する。・PDCAサイクルおよびカリキュラム・マネジメントの仕組みを理解し、保育実践にどのように活かされるか、その有効性について考察する。
9	保育と子育て支援	・子育て支援が必要とされる背景について理解する。・保育の場で行われている子育ての支援の内容や意義について考える。
10	健康・安全と保育(1)	・子どもの命を守ることが保育の大前提であることを理解する。・0～2歳と3歳以上の子どもの健康と安全について考える（「食・睡眠・水遊び」を含む）。
11	保育者の専門性と資質向上	・保育所保育指針に示される保育者の専門性について理解する。・「省察的实践者」と何か、保育者の資質向上の意義について考える。
12	保育の歴史に学ぶ	・遊びを中心とする日本の保育の成立について考える。・倉橋惣三の「育ての心」について理解する。
13	多様な子どもの理解	・外国籍の子どもについて理解する。・貧困家庭の子どもについて理解する。・障害のある子どもの理解について理解し、子どもの思いを読み取ることの重要性を考える。
14	授業内試験と学びのまとめ	・これまでの授業内容を振り返り、学びを整理する。・答え合わせを通じて、自分の理解や学びの改善を図る。

科目コード	52006	区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目			
授業科目名	保育実習指導 I B (施設)	担当者名	檜 嵯 日佳、松本 好生、塚本 千晴			○			
		実務経験との関連	担当者の中で福祉系専修学校教員・幼稚園教員・保育士としての実務経験がある教員が、実務経験をもとに実習について指導する。						
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	1.00	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

児童福祉施設実習に臨む心構えを学ぶとともに、施設実習における自己課題を見出す。また、施設実習中の子どもとの生活を通し、子ども理解を深め、児童養護実践力の向上に努める。

<授業の到達目標>

・児童福祉施設における記録方法について学ぶ。・施設入所児童への理解を深め、実際の支援について考える。・施設実習での活動を通して、保育者としての自己課題を見出す。

<授業の方法>

講義、グループワーク、個別指導等を適宜組み合わせる。また、必要に応じて上級生（保育実習 I B既習者）等をゲストに迎えて心構えに関する演習を行う。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度50%、実習に向けた実習ノート作成等の課題50%※授業は全出席すること※提出物は期限を厳守すること※社会人としてふさわしい態度で臨むこと

<教科書>

岡山県保育士養成協議会保育実習の手引き保育士養成協議会

内閣府文部科学省厚生労働省幼保連携型認定こども園教育・保育教育要領フレーバル館

適宜指示します

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業担当教員紹介と実習参加条件及び受講ルールについて児童生徒性暴力等の防止に関する法制度の理解
2	実習の意義と目的	実習の意義・目標、スケジュールについて
3	施設の種類と内容(1)	施設概要の学習(養護系施設)について
4	施設の種類と内容(2)	施設概要の学習(障害児施設)について
5	施設の種類と内容(3)	施設概要の学習(障害者支援施設)について
6	実習記録(1)	実習日誌の意義について
7	実習記録(2)	実習記録のポイントと方法について
8	実習記録(3)	実習記録のポイントと方法について
9	実習書類作成	自己紹介状、誓約書、出勤簿等の作成について
10	実習施設の学習	実習施設のプロフィール調査について
11	実習課題の設定	実習課題の理解と作成について
12	事前訪問指導	実習課題の理解と作成及び事前オリエンテーションの諸注意について
13	実習の心構え	プライバシーの保護と守秘義務、人権尊重と実習態度について
14	実習事後指導とまとめ	お礼状の作成・発送、体験報告、反省課題と報告書の作成について

科目コード	52005	区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目			
授業科目名	保育実習指導 I A (保育所)	担当者名	檜寄 日佳、塚本 千晴			○			
		実務経験との関連	担当者の中で幼稚園教員・保育士としての実務経験がある教員が、実務経験をもとに実習について指導する。						
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	1.00	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

保育実習 I Aの事前学習と事後学習のためのものである。実習のねらいと目的、課題を理解し、実習に臨むために必要な知識と力を身につける。また、実習生としての心構えやマナーなどの基本を実践的に学ぶ。実習後には各自が実習を振り返り、次の実習へとつなげる。

<授業の到達目標>

1. 保育の観察、記録、実習計画、実践、評価の方法や内容について具体的に理解する。2. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。

<授業の方法>

講義、演習、グループワーク、個別指導

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲・チーム貢献度30%、課題50%、試験20%※授業は全出席すること※提出物は期限を厳守すること※社会人としてふさわしい態度で臨むこと

<教科書>

岡山県保育実習委員会（2023）保育実習の手引き
厚生労働省（2018）保育所保育指針解説フレーベル館

<参考書>

内閣府文部科学省厚生労働省（2018）幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説フレーベル館

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	実習の意義と概要、授業ルール	授業の概要と目標、授業の進め方、授業ルールの確認児童生徒性暴力等の防止に関する法制度の理解
2	実習の意義と目標	保育実習の意義と目標実習園希望調査
3	実習の流れと実習生としての心構え	実習の流れと実習のステップ実習生としての心構え
4	保育の理解	保育の理解と保育の目標子どもとの関わり方、保育士等の社会的責任
5	指導案の作成（1）	子どもの姿とねらい、環境構成、活動の流れ
6	指導案の作成（2）	保育士の援助・配慮、作成上の留意事項
7	保育教材の作成（1）	シルエットクイズの作成と発表
8	保育教材の作成（2）	ペープサートの作成と発表
9	模擬保育（1）	模擬保育と振り返り（1）
10	模擬保育（2）	模擬保育と振り返り（2）
11	実習前オリエンテーション	実習書類の作成実習前オリエンテーションの意義と方法
12	実習日誌の書き方	実習中のメモの取り方と日誌の書き方エピソード記録と考察の書き方の演習
13	実習までの準備	実習の自己課題の設定と実習準備守秘義務と情報の管理
14	実習のまとめ	自己課題及び実習成果のまとめ礼状の作成

科目コード	51008		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	教育実習事前・事後指導(幼稚園)		担当者名	虫明 淑子、檜寄 日佳、塚本 千晴			○		
			実務経験との関連	担当者の中で幼稚園教員・保育士としての実務経験がある教員が、実務経験をもとに実習について指導する。					
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	1.00	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

幼稚園教育実習における事前準備と事後振り返りを行う。事前授業では、幼稚園教育の基本、幼児の発達特性、教育実習を行う際の心構え等について学ぶ。これまでの幼稚園教育専門科目で学んだ内容と、実習園での実習内容とを結合させて教育実習の成果をあげ、教職への認識を確かなものとする。実習生としての心構えやマナーなどの基本を実践的に学ぶ。実習後には実習を振り返り、次の実習へとつなげる。

<授業の到達目標>

1. 保育の観察、記録、実習計画、実践、評価の方法や内容について具体的に理解する。2. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。

<授業の方法>

講義、演習、グループワーク、個別指導

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

学習意欲・チーム貢献度30%、課題50%、試験20%※授業は全出席すること※提出物は期限を厳守すること※社会人としてふさわしい態度で臨むこと

<教科書>

環太平洋大学(2026)教育実習の手引き(幼稚園)
文部科学省(2018)幼稚園教育要領解説フレーベル館

<参考書>

内閣府文部科学省厚生労働省(2018)幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説フレーベル館

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	実習の意義と実習ルール	実習の意義と目標、実習ルールの確認児童生徒性暴力等の防止に関する法制度の理解
2	実習の意義と目標	実習の意義と目標の確認
3	実習の段階と実習の心構え	実習の段階と流れ、実習生としての心構え
4	幼稚園の理解	幼稚園教育要領の確認、教師の資質と幼児理解
5	指導案の作成(1)	発達段階及び幼児の姿を考慮した「ねらいと内容」、「活動内容」
6	指導案の作成(2)	ねらいを達成するための「教師の援助と配慮」
7	保育教材の作成(1)	自己紹介教材の作成と発表
8	保育教材の作成(2)	お楽しみ会やお別れ会の準備と発表
9	模擬保育(1)	模擬保育と振り返り(1)
10	模擬保育(2)	模擬保育と振り返り(2)
11	実習書類の作成、実習前オリエンテーション	実習園送付書類の作成、実習前オリエンテーションの意義と方法
12	実習記録の書き方	記録の取り方と日誌の書き方、エピソード記録と考察
13	実習までの準備	実習の自己課題、実習の準備、守秘義務と情報の管理
14	実習のまとめ	自己課題及び実習成果のまとめ、礼状の作成

科目コード	34210	区分	コア			実務経験のある教員等による授業科目			
授業科目名	子どもの理解と援助	担当者名	橘高 真紀子			○			
		実務経験との関連	保育士、保育所園長としての実務経験がある教員が実務経験を踏まえたテーマを扱い指導する。						
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

子どもの発達および内面的理解に関する理論を踏まえ、多角的な子ども理解の視点を修得するとともに、その理解に基づく援助の在り方を理論的・実践的に学ぶ。具体的には、教科書に基づく講義とエピソードを用いた演習を組み合わせ、実践的理解を深める。

<授業の到達目標>

(1) 子どもの発達や学びの過程を理解し、実態に即して把握できる。(2) 子どもの活動を5領域の視点から捉え、子ども理解の基本を説明できる。(3) 観察・記録を通して子どもを適切に見取り、その意味を考察できる。(4) 子どもの理解に基づき、適切な援助や関わりを考えることができる。

<授業の方法>

・教科書に基づく講義を行う。・エピソードを用いた演習を取り入れ、個別での思考を行った後、グループでのディスカッションを実施する。・グループ発表を行い、教員による講義を通して学びの整理・深化を図る。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・受講態度、グループワークの参加態度（15%）・演習課題（30%）・リアクションペーパー（15%）・最終レポート（40%）

<教科書>

松本峰雄監修子ども理解と援助 演習ブックミネルヴァ書房

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション保育における子ども理解の定義	・授業計画説明・講義および演習課題
2	子どもの理解に基づく養護と教育の一体的展開	・講義および演習課題
3	子どもに対する共感的理解と保育	・講義および演習課題
4	子どもの生活と遊び	・講義および演習課題
5	保育の人的環境としての保育者と子どもの発達	・講義および演習課題
6	子どもの集団での育ち	・講義および演習課題
7	葛藤やつまずき	・講義および演習課題
8	保育の環境の理解と構成	・講義および演習課題
9	環境の変化や移行	・講義および演習課題
10	職員間の対話	・講義および演習課題
11	保護者との情報共有	・講義および演習課題
12	発達の課題に応じた援助と関わり	・講義および演習課題
13	特別な配慮を要する子どもの理解と援助	・講義および演習課題
14	発達の連続性と就学への支援	・講義および演習課題

科目コード	52010		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	保育実習指導Ⅲ(施設)		担当者名	檜寄 日佳、松本 好生、 塚本 千晴			○		
			実務経験との関連	担当者の中で福祉系専修学校教員・幼稚園教員・保育士としての実務経験がある教員が、実務経験をもとに実習について指導する。					
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	1.00	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

事前指導では、各教科の理論・技能を再統合し応用できるための総合化の視点、それに基づく実習課題の明確化、及び施設利用者の生活に立ち入って施設保育の実際を内側から学ぼうとする者の持つべき倫理意識を学ぶ。※保育実習指導Ⅲ(施設)は児童養護施設、障害者支援施設への就職を行う者の受講に限る。

<授業の到達目標>

・児童福祉施設における保育士の役割について理解する。・施設入所者への理解を深め、実際の支援について考えることができる。・施設実習での活動を通して、保育者としての自己課題を見出す。・実習に向けての社会福祉施設の目的と内容についての基本を理解し、実習を円滑に進めていくための知識や心構えを得る。・自らの課題を明確にし、実践を通して施設保育士として必要な資質・能力・技術を習得する。

<授業の方法>

講義、グループワーク、個別指導等を適宜組み合わせる。また、必要に応じて上級生（保育実習Ⅲ既習者）等をゲストに迎えて将来像を見つけ出すなどの演習を行う。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度50%、実習に向けた実習ノート作成等の課題50%※授業は全出席すること※提出物は期限を厳守すること※社会人としてふさわしい態度で臨むこと

<教科書>

岡山県保育士養成協議会(2021)保育実習の手引き

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	実習の基本的理解	保育実習の意義、目的、実習の概要 児童生徒性暴力等の防止に関する法制度の理解
2	保育実習の内容と課題の明確化 (1)	施設の種類とその特徴
3	保育実習の内容と課題の明確化 (2)	施設での生活とその援助のあり方
4	保育実習の内容と課題の明確化 (3)	施設における保育士の役割
5	保育実習の内容と課題の明確化 (4)	実習課題のもち方
6	実習の計画と記録 (1)	施設の指導案について
7	実習の計画と記録 (2)	実習日誌の記録の仕方
8	実習に際しての留意事項 (1)	子どもの人権と最善の利益の考慮
9	実習に際しての留意事項 (2)	プライバシーの保護と守秘義務
10	実習に際しての留意事項 (3)	実習の心構え
11	事前指導の総括	事前指導のまとめ
12	事後指導 (1)	実習の総括と自己評価
13	事後指導 (2)	課題の明確化
14	まとめ	保育実習全体の振り返り

科目コード	52009	区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目			
授業科目名	保育実習指導Ⅱ(保育所)	担当者名	橘高 真紀子、塚本 千晴			○			
		実務経験との関連	担当者の中で幼稚園教員・保育士としての実務経験がある教員が、実務経験をもとに実習について指導する。						
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	1.00	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

保育実習Ⅱの事前学習と事後学習のためのものである。実習のねらいと目的、課題を理解し、実習に臨むために必要な知識と力を身につける。また、実習生としての心構えやマナーなどの基本を実践的に学ぶ。実習後には各自が実習を振り返り、実習の総まとめをする。

<授業の到達目標>

1. 保育の観察、記録、実習計画、実践、評価の方法や内容について具体的に理解し、実習において適切に活用できる力を身につける。2. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にし、今後の学びや実践へとつなげることができる。

<授業の方法>

講義、演習、グループワーク、個別指導

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

学習意欲・チーム貢献度30%、課題50%、試験20%※授業は全出席すること※提出物は期限を厳守すること※社会人としてふさわしい態度で臨むこと

<教科書>

岡山県保育実習委員会保育実習の手引き
厚生労働省保育所保育指針解説フレーベル館

<参考書>

内閣府認定こども園教育・保育要領解説フレーベル館

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	実習の意義と概要、授業ルール	授業の概要と目標、授業の進め方授業ルールの確認児童生徒性暴力等の防止に関する法制度の理解
2	実習の意義と目標実習の流れと実習生としての心構え	実習の流れと実習のステップ実習生としての心構え保育の基本と保育の目標保育所保育指針の確認
3	保育の理解	保育の基本と保育の目標保育所保育指針の確認
4	指導案の作成(1)	子どもの発達段階や興味関心を考慮したねらいと活動
5	指導案の作成(2)	ねらいを達成するための保育士の援助と配慮
6	保育教材の作成(1)	パネルシアターの作成と発表
7	保育教材の作成(2)	スケッチブックシアターの作成と発表
8	模擬保育(1)	模擬保育と振り返り(1)
9	模擬保育(2)	模擬保育と振り返り(2)
10	模擬保育(3)	模擬保育と振り返り(3)
11	実習書類の作成実習前オリエンテーション	実習書類の作成実習前オリエンテーションの意義と依頼、訪問のマナー
12	実習記録の書き方	わかりやすいエピソード記録と考察の書き方
13	実習までの準備	実習の自己課題の設定と実習準備守秘義務と情報の管理
14	実習のまとめ	自己課題及び実習成果のまとめ礼状の作成

科目コード	23202		区分	コア			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	教育社会学 [週間オンデマンド]		担当者名	濱嶋 幸司			○		
			実務経験との関連	独立行政法人のアシスタントフェローとしての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00	授業方法	講義	卒業要件	選択（教育社会学コース生必修）

<授業の概要>

本科目では教育社会学の立場から「教育に対する社会的事項」「教育に関する制度的事項」「教育に関する経営的事項」「学校と地域との連携」「学校安全への対応」を含み、教育の諸現象を社会的に考察し、その問題解決の方策を探る。また、教師が主体的に関与する方策も考える。教育社会学のこれまでの研究成果を紹介し、履修者に多様な価値観、思考枠組を提供することを目的とする。具体的には、教育現象に関わる個人の心理や社会の仕組みを社会的視点に基づいて紹介し、履修者が現在および将来、直面することになる諸課題を自分で考え、解決策を

<授業の到達目標>

①教育に関する社会的事項（社会や子どもの変化）の学校教育への影響、それに対する教育改革、教育政策、現場の対応を理解できる。学校をめぐる社会的事項を理解できる。子どもの生活の変化と実態や指導上の課題を理解できる。近年の教育政策、教育改革を理解できる。諸外国の教育事情・教育改革の動向を理解し、日本へ改革への示唆を得ることができる。②現代の公教育制度の意義・原理・法的・制度的仕組みや課題に関して理解できる。教育関係法規、教育行政の理念と仕組みを理解できる。教育制度の諸課題の例示ができる。③学校経営の観点

<授業の方法>

オンデマンド形式でおこなう。履修者へは各回資料を配布する。各回の理解および振り返りを求める。

<成績評価方法> ※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

各回の視聴課題（14%）、リアクション（26%）、最終課題[選択式テストと記述式小レポート]（60%）

<教科書>

特に指定しない（参考書を参照しながら講師が独自に説明する）

岩永雅也（2019年）『教育社会学概論』放送大学出版会

<参考書>

中村高康・松岡亮二（2021年）『現場で使える教育社会学：教職のための「教育格差」入門』ミネルヴァ書房

高野良子・武内清編著（2024）『教育の基礎と展開 豊かな教育・保育のつながりをめざして』[第3版] 学文社

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス：教育社会学とは？	科目のねらい、到達目標、授業の進め方、成績評価基準などの説明
2	教育社会学とは？①教育社会学の目的・対象・手法	教育社会学の特色、他の学問領域との違いを説明する。社会科学としての研究スタイルを説明し、教育社会学が対象としてきた事例、その目的、手法についても概説する。
3	教育社会学とは？②教育社会学の歴史と現在	教育社会学の研究がどのように現在に至るのか、これまでの著名な研究を時代背景とともに説明する。日本の研究を中心とするが、海外の研究に大きな影響を受けているため、その研究についても触れる。
4	ライフコースと教育社会学①家族と子ども	身近な社会集団といえる家族そして乳幼児期からの子ども社会について説明する。
5	ライフコースと教育社会学②小学生・中学生	義務教育段階の子どもと彼らを取り巻く社会・学校・教育現象について説明する。
6	ライフコースと教育社会学③高校生	高校生の意識および彼らを取り巻く社会、学校、教育現象について説明する。
7	ライフコースと教育社会学④大学生	大学生文化とは何か？大学文化とは？高等教育機関を取り巻く社会、大学、教育現象を説明する。
8	ライフコースと教育社会学⑤職業（初期キャリア）	学校から職業への移行は教育社会学においても重要なテーマである。仕事を探す、キャリアを形成することを教育社会学ではどのように読み解けるのか説明する。
9	ライフコースと教育社会学⑥職業（中期～キャリア）・居住	キャリアと年齢を積み重ね、初職の勤め先を続けることもあれば、離職を繰り返すこともある。仕事と生活の両立、結婚・子育てといったライフコースについても教育社会学から読み取れることを説明する。人生の中盤、後半に差し掛かった場面もまた教育社会学の対象となる。大人になってからも学習することは多く、キャリアを積み重ねることの重要性を説明する。
10	教育社会学の観点①グローバリズムとナショナリズム	これからの国際社会を生きることと、自分はどこかの土地で生きること、どちらも将来の生活において不可欠なテーマである。テーマのキーワードを中心に説明しながら、教育社会学を用いてどのような理解ができるか各自に考えてもらう。

11	教育社会学の観点②教育格差とは何か	<p>経済的な格差、暮らし向きの格差、待遇の格差、機会の格差、さまざまな格差が拡大しているといわれている。教育もまたこのような格差との関わりをもっている。テーマのキーワードを中心に説明しながら、教育社会学を用いてどのような理解ができるか各自に考えてもらう。</p>
12	教育社会学の観点③社会「問題」と向き合う	<p>社会の「問題」はどこにあるのか？何が「問題」なのか？逸脱現象などとも大きく重なる。ここでは社会「問題」の社会学（クレイム申し立て活動）、構築主義的な考え方を概説する。テーマのキーワードを中心に説明しながら、教育社会学を用いてどのような理解ができるか各自に考えてもらう。</p>
13	教育社会学の観点④教師への期待と役割	<p>教師および教師を取り巻く社会もまた教育社会学の重要なテーマのひとつである。教師という専門職（仕事）、教師の実践（意識）など概説する。テーマのキーワードを中心に説明しながら、教育社会学を用いてどのような理解ができるか各自に考えてもらう。</p>
14	展望：これからの教育社会学をどのように活用できるか	<p>13回にわたる説明をもとに、教育社会学とはどのような学問なのか、現時点での到達状況を説明する。また、履修者自身、教育社会学を用いることでどのような発見、関心を持ったのか、これから何ができそうか考えてもらう時間とする。</p>